

第1回南知多町総合計画審議会 議事概要

日時 令和6年5月23日(木)

13:30~15:30

場所 南知多町役場 大会議室

出席委員

会長	千頭 聡	日本福祉大学 教授
副会長	秦 由岐穂	男女共同参画人材育成セミナー修了者
	山本 直径	南知多町水産振興会代表
	畑中 康弘	あいち知多農協代表
	太田 彰	商工会代表
	宮本 邦彦	南知多プラスチック工業団地協同組合
	鈴木 甚八	南知多町観光協会代表
	黒田 吉生	区長連合会代表
	二宮 達好	南知多町まちづくり協議会代表
	澤田 晟	自主防災代表
	吉原 知味	教育委員代表
	山川 律子	民生委員・児童委員代表
	山下 かず代	社会福祉協議会代表
	鈴木 尚子	小学校PTA代表
	岩瀬 雅哉	愛知県市町村課
	宮地 舞	知多半島ケーブルネットワーク株式会社
	尾山 皓一	一般公募
	山本 多恵	一般公募
	坂野 真由美	一般公募

欠席委員

榊原 英治 金融機関代表

傍聴席

0人

議事次第

あいさつ

委嘱状交付

委員及び職員等の紹介
総合計画審議会について
会長、副会長の選任
第7次南知多町総合計画（案）の諮問

議 題

- (1) 前期計画の評価について
 - (2) 計画見直しの方向性について
 - (3) 町民意識調査の現状について
- その他

議題概要

議題 1 前期計画の評価について

【事務局の主な説明】

- ・最新の人口データを提示

【委員の主な意見】

(秦 由岐穂 委員)

- ・資料4のP10「南知多町の社会増減」において、ほとんどの自治体は同じ傾向にあると思う。南知多町が20歳から24歳が5年後に25歳から29歳になる世代の転出が、他の自治体と比べて特に多いのか比較できるとよい。例えばUターンで戻ってきた人の人数などが分かると良い。

(事務局)

- ・リーサスによると他の自治体も同じようなグラフとなる。Uターンなどで戻って来ているかどうかは転入者を調べるしかない。

(千頭 聡 会長)

- ・10ページのグラフだけを見ると20歳から24歳の人が25歳から29歳になる世代の転出が多いが、実際にはもっと前の段階で転出している可能性がある。また、5ページの社会動態の転入がUターンなのかどうかは住民基本台帳から細かく分析してほしい。

(澤田 晟 委員)

- ・今回の見直しで KPI の点数の出し方を変えるとのことだが、しっかりと説明をしながら

進めてほしい。

(二宮 達好 委員)

- ・ 18 ページの KPI はどのように計算したか。

(事務局)

- ・ 総合計画 P88 に掲載されているとおり、重要と回答した人のうち、満足した人の割合をポイント化している。

(山本 多恵 委員)

- ・ 社会動態の転入は技能実習生も人数に含まれているか。

(事務局)

- ・ P5 の数値は単純に南知多町から出ていった人の人数。入ってきた人の数字だが、P6 は国内への転出、国内からの転入の数字。P6 の数値をみると、国内への転出が多いことが分かる。

(坂野 真由美 委員)

- ・ 令和2年に転出入が急増している理由はなにか。

(事務局)

- ・ コロナを始めとした社会情勢の影響はあると思うが、現時点では分析できていない。

(千頭 聡 会長)

- ・ 住民基本台帳で転入してきた場所を調べておいてほしい。

(山下 かず代 委員)

- ・ 社会動態の推移の人数は施設に入所した人も入っているか。

(事務局)

- ・ 住民票を移動していれば含まれている。

(千頭 聡 会長)

- ・ P7 では老年人口の割合が増えているが、総数は減り始めている。担当部局から見た時に、高齢者向けサービスの需要量は既に頭打ちで下がりつつあるのか。高齢化率でみていくだけでなく、実数で調べていただきたい。

議題 2 総合計画進行管理について

【事務局からの主な説明】

- ・ KPI 指標（町民満足度調査）は、現在では「重要度」と「満足度」を利用して算出している。そのため施策を知らない人の評価も含まれている。
- ・ 中期では算出方法を変更し、「認知度」と「満足度」を利用して施策を知っている人のみの評価としたい。
- ・ 基本施策は、現代の課題や令和 7 年度以降の計画へ向けて、目指すべき将来像や個別計画の修正などを行う。
- ・ 「南知多町がとるべき戦略」として「デジタル田園都市国家構想」を追加する。

【委員の主な意見】

（千頭 聡 会長）

- ・ 総合戦略とは何か。

（事務局）

- ・ 総合計画 P4 にも記載されているとおり、国の総合戦略にならって地方版も作るということで地方版総合戦略を作る必要がある。しかし、新しく作るのではなく、総合計画と兼ねている。

（尾山 皓一 委員）

- ・ デジタル田園都市国家構想について、具体的なイメージは今の時点であるか。

（事務局）

- ・ 現在実施しているものは、師崎港観光センター周辺整備事業、LINE を使った情報伝達の整備。

（副町長）

- ・ 分かりやすく言うと、デジタル田園都市国家構想を使うと、国が事業費の 2 分の 1 の補助金をくれると考えていただきたい。

（宮地 舞 委員）

- ・ デジタル田園都市国家構想については、弊社も力をいれている。成功事例や情報なども随時提供していきたい。

(秦 由岐穂 委員)

- ・資料4のP18に記載されているKPIの点数化の変更について賛成。次の評価委員会は集計変更後の数値でやるのか。

(事務局)

- ・変更した際は来年の評価委員会から変える。

(坂野 真由美 委員)

- ・KPIの集計方法についてだが、施策を知らない人も今後は関わってくると思うので、知らない人の割合も出してほしい。

(事務局)

- ・とても大事な指標であるので、知らない人の割合も数字で把握していく。

(秦 由岐穂 委員)

- ・南知多町がとるべき戦略(1)について、子どもが高校生になったときにバスや電車の本数がネックで転出される家庭もある。インフラのことも子育てに関わってくるのでは。

議題3 住民意識調査(案)について

【事務局の主な説明】

- ・資料6の左の表が従来の算出方法で計算した満足度の結果。令和6年のものについては速報値となっている。昨年と比較すると点数が上がっている施策は7つ、下がっている施策は14となっている。
- ・真ん中のグラフは新しい集計方法で算出した、認知度1から2を選んだ人のうち、満足度1から2を選んだ人の割合。従来の方法と比べると、数値が落ち込んでいる。しかし、施策を知っている人の評価でもあるので、妥当な数字だと考えている。
- ・一番右のグラフは、認知度1から2を選んだ人のうち、満足度1から3を選んだ人の割合であり、かなり高い数値となっている。
- ・よって今後は真ん中の表にあるとおり、認知度1から2を選んだ人のうち満足度1から2を選んだ人の割合を満足度としたい。

【委員の主な意見】

(澤田 晟 委員)

- ・極端に低い点数の施策は何が原因なのか。

(事務局)

- ・点数が低い施策は改善する部分があり、高い施策は認知されている、満足しているという捉え方をする。

(千頭 聡 会長)

- ・例えば2-4をみると、R5が60でR6が24まで下がっている。結果的に満足度の高い方の評価がもともと低かったということがあらわれた。極端に低い施策に関しては、細かく見ていただいて原因の追究をお願いします。

(事務局)

- ・今年度については従来通りの数値で評価委員会にかける。見直しをすると目標設定も変わってくるため。

(副町長)

- ・補足として、R6については速報値ということで、約50%の方の回答のみ。このモニターは産業団体や年齢がある程度分布するようにお聞きしている。このことについて議論するのは、回答がそろった時点がよい。

(鈴木 甚八 委員)

- ・今年の北陸の地震が発生してから、観光客に安心を届けるためにはどうしたらよいかという話を観光協会ですしている。町としては防災に関して何か考えているか。

(副町長)

- ・3つの柱の「安心できるまちづくり」の一番上にある3-1「まちと命を守る防災」が一番重要であると考えている。

(鈴木 甚八 委員)

- ・また、東日本大震災が発生したときは、日間賀島観光協会として危機感を持ち、役場へ避難誘導版の作成を依頼した。今もその誘導版があるが、もう一度作ってほしい。

(千頭 聡 会長)

- ・今日出なかった意見は後日何かアンケートで役場にお寄せいただくのはどうか。

(事務局)

- ・そうさせていただく。1週間から10日間で何かご意見を頂けるとありがたい。

(二宮 達好 委員)

- ・南知多町がとるべき戦略(6)について「一步進んだ」とはどのような施策があるのか。

(事務局)

- ・人口減少が進んだ町だからこそ、これが出来るという意味合い。普段みなさんが行っている活動が割と当てはまると思う。

(二宮 達好 委員)

- ・中高生のヒアリングが楽しみ。パブリックコメントは意見が集まらないと思うが、関心をもってもらえるような方法があるとよい。

(事務局)

- ・中学生へのヒアリングはタブレットを用いて実施する予定。パブリックコメントは、みなさんに知ってもらい、その後回答してみようかと思ってもらえるかがポイント。回答してもらうための方法を考えていく。

(坂野 真由美 委員)

- ・「みんなの集い」に参加すると、町民のリアルな意見を聞ける。せつかくの場であるので何か連携できたらと思う。

(秦 由岐穂 委員)

- ・意見を言っても手応えがないと感じてしまうと、次は言わなくなってしまうので、役場も上がった意見に対するリアクションをしてほしい。

(澤田 晟 委員)

- ・第7次総合計画には「協働」という言葉が多く入っている。町民意識調査で記入いただいた自由記述も総合計画に反映、共有できたらよいと思う。

(尾山 皓一 委員)

- ・各協会や団体個人が大事にしていることや力を入れていることなどを共有する場が非常に大切。そこに中学校も絡めてほしい。

(山下 かず代 委員)

- ・高齢者はパブリックコメントだと意見を出しにくい。どのように意見を拾っていくかが大事。

(山本 多恵 委員)

- ・南知多町のホームページなどで求人情報などを紹介することはできるのか。

(副町長)

- ・職安のようなマッチングはできない。事業者は募集しているが、詳細は直接聞いてくださいということは出来る。

(山本 多恵 委員)

- ・南知多町ではどのような移住支援をおこなっているか。

(副町長)

- ・空き家バンクをおこなっている。現在は危険な空き家を増やさないようにということを重点的におこなっているが、空き家バンクを利用して入って来られた方への支援は継続させていく。

(山本 多恵 委員)

- ・空き家バンクを利用して実際に契約をする方の半分くらいが高齢者。役場が求めている方たちとは異なると思う。その辺りをもう少し考えていただきたい。

(千頭 聡 会長)

- ・他の地域を見ると、大人たちが子どもたちに対して、自分たちの住んでいる町は素晴らしいんだということを学校でも家庭でも伝えている。一旦は都市に行っても、帰ってくるか帰ってこないかの境目は、中学校くらいまでに町に帰ろうと思うかどうか。
- ・人口が減少したという話題ばかりの町には帰りたくないと思う。

(岩瀬 雅哉 委員)

- ・南知多町がとるべき戦略（6）について、デジタル化やAIを活用することが一歩進んだまちづくりではないのか。
- ・今は高齢者でもスマートフォンを使用しており、今後は自在に使いこなせるようになる。そういった中で、新しいものを取り入れていくことで生活が豊かになっていくのでは。

以上